

シュンギクは、冬から春にかけての鍋物に欠かせない、わき芽を摘み取り
長期間収穫でき家庭菜園に最適

[栽培のポイント]

春まき栽培：生育が旺盛で、播種後40日
前後で収穫できます。5月以降の播種で
は抽苔、病害が多発し易いです。

秋まき栽培：露地栽培とハウス栽培があり
ます。秋まき栽培は薄播きにして、株を
充分張らせませす。露地栽培では越年収穫
や霜害を受け易いところでは、11月頃か
らトンネルの被覆が必要です。



1 品 種

中葉系の株張り種と中葉種が適します。株張りは枝の分岐性が強く、根元か
ら株が張ります。品質も良く多収性です。中葉は枝の分岐や葉数は少ないが耐
暑性と耐寒性もあり、生育も早いです。

2 播種準備

- ・ 播種1週間前までに1a当り完熟堆肥200kg、苦土石灰10kgを施用し
酸性矯正します。元肥の施肥量は成分量で窒素1.2kg、リン酸1.2kg、加里
1.2kg程度とします。追肥をする時は窒素成分で0.3kg位を施します。
- ・ 施肥法は元肥を主体とし、摘み取り栽培や生育で肥切れ状態の時は液肥や
速効性の化成を追肥します。
- ・ 播種及び栽植方法は、直播と移植により異なりますが、直播では、畦巾130cm
前後で4~6条、条間20cmが一般的です。トンネル栽培では条数を減らし、
条間を25cm位に広げます。
- ・ 移植では、本葉5枚頃、株間15×15cm、又は12×18cm位に定植します。

3 病虫害防除

- ・ 厚播きを避け、生育初期のアブラム発生や炭そ病に注意して適期防除に心
掛けて下さい。

4 収 穫

- ・ 根付きでは20cm位で収穫します。
- ・ 摘み採り方式では主枝の本葉が15枚頃になったら6枚前後残して収穫しま
す。分枝は主枝摘み採り後発生が多くなりますが、葉を2~3枚残して収穫
します。

参考文献：神奈川の野菜